

看護学研究科看護学専攻の概要

学 位	修士(看護学)
定員(1学年)	8名(男女共学)
修業年限	原則2年(長期履修制度有)
入 学 時 期	4月
設 置 場 所	奈良学園大学 (奈良市中登美ヶ丘3丁目15-1)

納付金

① 他校（卒業者）	入学検定料	入学金	授業料等
	35,000円	200,000円	750,000円 (2年目750,000円)
② 長期履修学生	入学検定料	入学金	授業料等
	35,000円	200,000円	500,000円 (2年目・3年目年額500,000円)
③ 本学保健医療学部看護学科（卒業者）	入学検定料	入学金	授業料等
	35,000円	50,000円	750,000円 (2年目750,000円)

※CNSを履修するコースは別途実習費として2年目に100,000円が必要となります。
※別途諸費が必要となります。
※実習地までの交通費、教科書代等が別途必要となります。

アクセス

交通の利便と豊かな環境に恵まれたキャンパス

先端の医療が体験的に学べる充実の施設設備

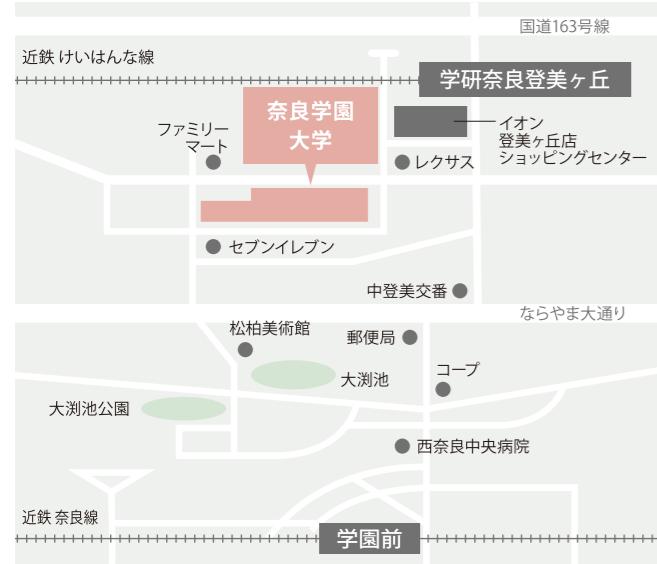


奈良学園大学には、保健医療技術を学ぶための施設や設備が整っており、最先端の保健医療を総合的に学べます。

関西文化学術研究都市の一角、 先進的な情報が集積する立地

キャンパスは、「関西文化学術研究都市」の一角にあります。学研都市は創造的な学術・研究の振興を行い、新産業・新文化などの発信の拠点・中心となることを目的として整備され「科学技術とふれあうまち」の愛称のもと、大学院や企業の研究施設が集結しています。

周辺 MAP



〒631-8524 奈良市中登美ヶ丘3丁目15-1

- 近鉄けいはんな線「学研奈良登美ヶ丘」駅から西へ約1000メートル
 - 近鉄奈良線「学園前」駅から奈良交通バスで約9分「中登美ヶ丘四丁目」下車、東へ約150メートル
 - 近鉄京都線「高の原」駅から奈良交通バスで約15分「北登美ヶ丘一丁目」下車、西へ約620メートル

奈良学園大学へのアクセス



● 近鉄けいはんな線「学研奈良登美ヶ丘」

- 近鉄奈良線「学園前」駅から奈良交通バスで約9分「中登美ヶ丘四丁目」バス停下車

●近鉄京都線「高の原」駅から奈良交通バスで約15分「北疊美ヶ丘一丁目」下車、西へ約620メートル



〒631-8524 奈良市中登美ヶ丘3丁目15-1

TEL.0742-93-9958 (入試広報課)
<https://www.naragakuen-u.jp/>

奈良学園大学 検索

Graduate School of Nursing

2025

人を支える人になる



高度なヒューマンケアを提供できる 保健医療専門職者を育成する

1. 社会の要請が高い3つの専門分野を開講

2. 奈良県内では唯一の精神看護CNS養成 ※2024年3月時点

3. 社会人にも学びやすい授業時間設定と長期履修制度



看護学研究科
研究科長
上野 栄一

本学の大学院看護学研究科では、地域保健医療の推進のために重要な、在宅看護、育成看護、精神看護の分野における専門性を高め、多職種連携のもと、リーダーシップがとれる高い能力を備えた高度保健医療専門職の育成をめざします。また、精神看護学分野にはCNS(Certified Nurse Specialist)を履修するコースも設置(精神看護専攻教育課程)しています。本コースでは、CNSの6つの役割(実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究)を学び、高い専門性と総合的な視野をもち独創性・指導性を發揮できる精神看護専門看護師を養成し、地域のニーズに応えます。

DP [ディプロマポリシー] 学位授与の方針

- 各専門分野の諸理論に精通し、臨床現場で生じている課題を科学的、論理的に解決する方法を修得し、質の高い看護実践力を有している。
- 臨床で生じる課題について、研究手法を用いて科学的に探究できる能力を有している。
- 各専門分野において、臨床での看護実践を教育するための知識を有している。
- 高い倫理観をもち、臨床で生じる倫理的問題に対して、適切に判断し、調整する方法を見出す力を有している。
- 看護実践および教育、研究について、国際的視野をもち、保健医療チームにおけるリーダーとして、他のメンバーを尊重し、協働や連携を促進できるマネジメント力を有している。

教育課程の概要

2年以上在学し、所定の科目を30単位以上(CNSを履修するコースは44単位以上)修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文または特定の課題についての研究の成果の審査および最終試験に合格する必要があります。

研究科目

■特別研究(8単位)

■課題研究(4単位 CNSを履修するコースのみ選択)

在宅看護学 分野

- 在宅看護学特論Ⅰ
(在宅看護学)
- 在宅看護学特論Ⅱ
(慢性期)
- 在宅看護学特論Ⅲ
(回復支援)
- 在宅看護学特論Ⅳ
(地域包括支援)
- 在宅看護学特論演習

育成看護学 分野

- 育成看護学特論Ⅰ
(発達支援)
- 育成看護学特論Ⅱ
(次世代育成支援)
- 育成看護学特論Ⅲ
(リプロダクティブヘルス・ケア)
- 育成看護学特論Ⅳ
(家族支援)
- 育成看護学特論演習

精神看護学 分野(CNS)

- 精神看護学特論Ⅰ
(歴史・法制度)
- 精神看護学特論Ⅱ
(精神・身体状態の評価)
- 精神看護学特論Ⅲ
(精神科治療技法)
- 精神看護学特論Ⅳ
(精神看護理論、援助技法)
- 精神看護学実習 アセスメント
- 精神看護専門看護師役割実習
- 地域移行支援精神看護学特論
- 直接ケア実習
- 上級直接ケア実習

基盤科目

- 国際医療特論
- 臨床薬理学
- 看護理論特論
- ヘルスプロモーション特論
- フィジカルアセスメント
- 看護管理学特論
- コンサルテーション論
- 国際看護特論
- 病態生理学
- 看護教育学特論
- 看護倫理特論
- 看護研究特論

修了要件

2年履修/3年履修

基盤科目
10 単位以上

専門科目
12 単位以上*

研究科目
8 単位以上

基盤科目
16 単位以上

専門科目
24 単位以上

研究科目
**4 単位以上
(課題研究)**

*3分野のうち1つを主たる分野として演習2単位を含む8単位以上、及び他の分野から4単位以上を修得する。ただし、精神看護学分野の急性期精神看護学特論と地域移行支援精神看護学特論、実習科目は除く。

履修上の留意点

CNSを履修するコースにおいては、国際医療特論、看護倫理特論、看護研究特論、臨床薬理学、病態生理学、フィジカルアセスメント12単位必修、コンサルテーション論、看護理論特論、看護教育学特論、看護管理学特論から4単位以上、専門分野24単位以上(特論4科目8単位、演習2科目4単位、実習4科目10単位はそれぞれ必修、急性期精神看護学特論または地域移行支援精神看護学特論からいずれか1科目2単位選択)。

CP [カリキュラムポリシー] 教育課程編成・実施の方針

- 看護学分野における高度な看護実践能力と教育研究能力を有する人材を育成するための教育課程を編成する。
- 高度な看護実践能力と教育、研究の基盤となる専門的知識と学際性を備え、また高い倫理観と国際性を養うため、基盤科目及び専門科目に区分した体系的な教育課程を編成する。
- 基盤科目では、専門の学習の深化と発展につながる基礎的理論及び研究技術又は国際的視野に立脚した最新の知識と科学的根拠に基づいた理論の教授に重点を置いた講義、演習を行う。
- 専門科目、研究科目として、講義、演習および特別研究・課題研究を通じ、高度な専門的能力を養成する科目を設置する。なお、CNSを履修するコースには資格認定のための必要な科目を設置する。
- 主指導教員と副指導教員による複数の教員指導体制のもと、高度な看護実践に貢献できる論文又は課題研究の研究指導を行う。

AP [アドミッションポリシー] 入学者受入れの方針

- 学修目標を明確にして主体的に学ぶことができる。
- ヒューマンケアを提供する看護職としての資質を有している。
- 国際的視野に立ち、柔軟な発想と論理的思考で課題を探究する姿勢をもっている。

在宅看護学分野

地域や医療機関・施設において、人がその人らしく過ごしていけるケアを探ります。

様々な健康レベルにある成人期～老年期の人を対象に、生活背景や人生に対する価値観・自律性・主体性を考慮し、医療機関・施設・在宅のそれぞれの場の特性と機能に応じた高度な看護実践力を培います。また、専門職間連携と地域力を活かした協働の理論と応用、及び看護実践に必要な根拠ある介入方法について探究します。

教員紹介

臼井 キミカ 教授/分野責任者

私の専門分野は老人看護学です。重度認知症高齢者への日常生活支援技術や介護を担う家族・ケア担当者の研修プログラム開発、高齢者虐待の要因・課題分析、虐待介入防止研究に取り組み、研究成果が多職種の連携・協働・地域づくりに広がることを願っています。

西園 貞子 教授

開発した看護版コンピテンシー評価指標によって能力の可視化を図り、継続的な看護実践能力の育成に取り組んでいます。学習者が主体的に課題発見→解決力を身につけるIBLを活用し、「**生きた学び**」の教育設計に取り組んでいます。

田場 真理 准教授

慢性疾患とともに生きる人々が、その人らしく生きることを支える看護について研究をしています。慢性疾患を持つ人々のメンタルヘルス不調を予防するための支援や人生の最終段階における意思決定支援(ACP)、その実現のための看護師の対話力などが主なテーマです。

岩本 淳子 教授

専門分野は保健管理学研究です。地域住民のヘルスプロモーション、環境要素の明るさが視床下部の機能に及ぼす影響、サーカディアンリズムの変調と高齢者の転倒の関係を解明する疫学研究に取り組んでいます。

小林 由里 准教授

看護学生への教育実践や、新人看護師を含む看護師のクリティカルシンキング能力、看護実践能力に関するテーマについての研究に取り組んできました。現在は、エンドオブライフケア、看護師の経験知、看護教育にかかる看護師に焦点を当てた研究に取り組んでいます。



育成看護学分野

次世代を担う子どもの育成に より深くかかわるケアを探ります。

母性・女性看護学と小児看護学の分野を統合し、親になる準備段階にある思春期から周産期、子育て期、そして生まれてきた子どもと家族の看護について探究します。

教員紹介

服部 律子 教授/分野責任者

青年期からの親準備性、若者の健康支援、周産期の母親のメンタルヘルスなどに焦点を当て、親になるプロセスや子育てを支援するための研究をしています。マタニティケアやウィメンズヘルスケアなど、母性看護学・助産学に関するテーマの研究指導を行います。

宮本 雅子 准教授

大学院では母性看護学や助産学の学問領域である育成看護学分野の科目を担当します。周産期の女性やその家族への支援、子育て支援、思春期や更年期女性の健康教育について研究をしています。

小池 伝一 准教授

あらゆる子どもとその家族への看護、子どもの「最善の利益」を基にした看護援助、子どもの家族への社会的・心理的援助をおこなうため、主として質的研究をおこない、エビデンスに基づいた看護援助の構築を目指しています。

西川 美樹 准教授

安全で安心な分娩支援体制の構築を目指し、ICTを活用した助産師の業務分析およびプレホスピタルケアにおける救急隊員向けの施設前分娩対応のための教育プログラム構築の研究に取り組んでいます。母性看護学・助産学に関連したテーマの研究指導を行います。

精神看護学分野

教員紹介

上野 栄一 教授・研究科長/分野責任者

精神看護学は、こころのケアを探求する学問です。特に対象者と看護師との相互作用に関心を持っています。また、精神看護学領域における理論と方法とに基づく会話分析や客観的評価を通して、こころの可視化としてEBNIに基づく援助方法について探究しています。

西出 順子 講師

自己心理学・間主觀性理論から見た患者看護師関係の省察と治療的関係性について関心があります。心理検査を用いた見立て、発達理論・精神分析理論を用いた対象理解、また、来談者中心療法や短期精神療法等の治療技法に関する授業を担当しています。

専門看護師の資格取得を視野に 精神の健康保持や増進、疾病予防を考えます。

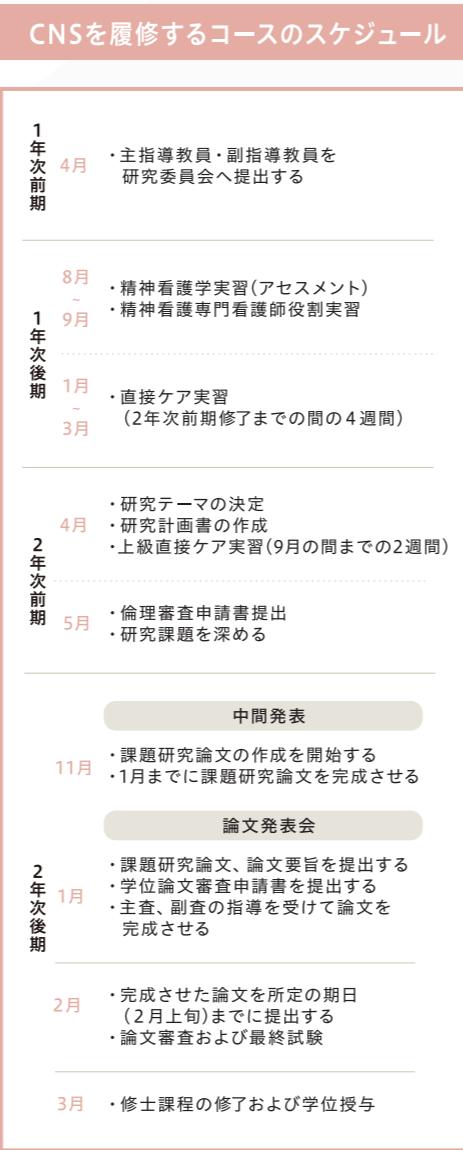
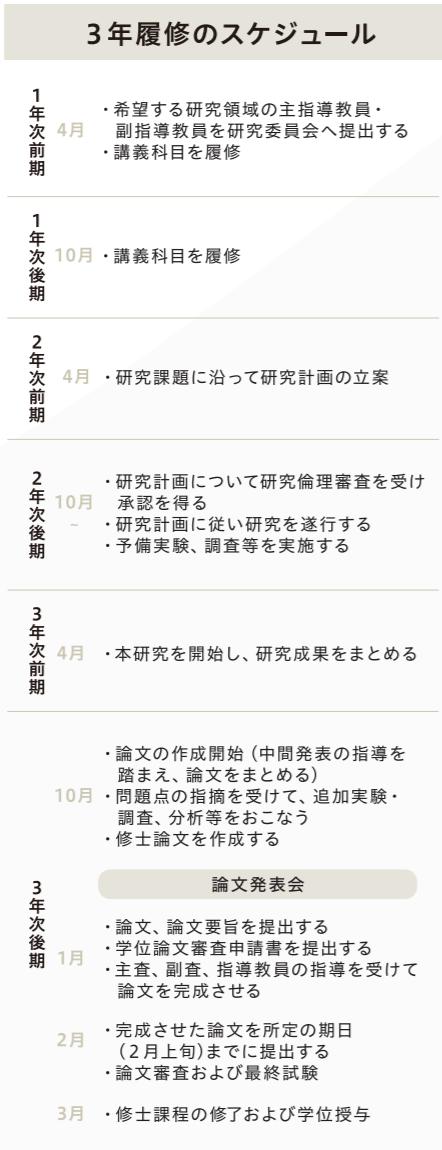
入院精神医療と地域精神医療の場で高度な看護を実践し、看護職者や多職種のコンサルテーション、組織のマネジメント、教育、研究、精神医療の場で生じる倫理的な課題をトラウマ・インフォームドケアの視点で解決する能力を修得します。

蓮池 光人 准教授

青年期にある対象のメンタルヘルスに焦点を当てて、その人がもてる力を発揮しながらその人らしい生活を営むための支援について研究しています。また、夜の街関連職業従事者の健康支援やセカンドキャリア支援についても研究をしています。



修了までの流れ



特別研究について

概要

「在宅看護学分野」「育成看護学分野」「精神看護学分野」のテーマについて、学生が作成した研究計画をもとに具体的な研究へと導き、論文を完成させるための指導を行います。

目標

1 研究計画書の作成に関する基本的な知識を説明できる。

2 専門看護領域の発展や専門知識・技術の向上を図るために、科学的思考や倫理的思考に基づいた研究活動を行える。

3 研究を推進するにあたり確かな倫理観に裏付けられた研究的态度を身に付けることができる。

課題研究について<CNSを履修するコースのみ>

概要

精神看護学実習で取得した精神看護専門看護師の技法について、理論的、広範囲な文献からクリエイティクし、実践を概念化し新たな技法も開発、有効性の検証を行い、課題研究の論文を完成するための研究指導を行います。

目標

1 学習内容の中から、精神看護専門看護師の実践の中で生じる課題を抽出する。

2 研究テーマにふさわしい知見を得て、修士課程終了に相当する課題研究論文をまとめる。

授業時間と長期履修制度

勤務しながら学べるよう、夜間・土曜日、集中講義開講や、修業年限を3年に延長する長期履修制度を導入しています。

平日夜間・土曜昼間開講

平日	土曜
5限…16:20～17:50	1限…9:00～10:30
6限…18:00～19:30	2限…10:40～12:10
7限…19:40～21:10	3限…13:00～14:30
	4限…14:40～16:10

長期履修制度

2年間のカリキュラムを3年間で修了

3年履修でも2年履修と同じ授業料で学べる



Student's Interview

2023年入学
在宅看護学分野

片山 彩萌

研究テーマ(内容)
回想法、VR技術、認知症予防
指導担当教員
臼井 キミカ 教授

最新の専門的な看護を実践していきたい

私は、常に患者さんにとって良い看護とは何かを考えつつ、科学的根拠に基づく新たな知見を取り入れた看護を提供していきたいと考えています。そのためには、まず看護に関する研究について学ぶことで最新の専門的知見を理解する力を身につけ、実践に活かしていくことが必要だと考えて大学院へ進学しました。現在は、回想法を用いた認知症予防に関する研究を行っており、新しい視点としてVR技術を導入した回想法の認知症予防の可能性を明らかにしたいと考えています。

想定される修了後の進路

TYPE 1 高度な専門知識をもつ看護職者として、医療機関、訪問看護ステーションなどに勤務

TYPE 2 教育者・研究者として看護系大学や研究機関に勤務

TYPE 3 大学院(博士後期課程)へ進学

在宅看護学分野 白井 キミカ kusui@naragakuen-u.jp

育成看護学分野 服部 律子 r-hattori@naragakuen-u.jp

精神看護学分野 上野 栄一 ueno5005@naragakuen-u.jp

問い合わせ先